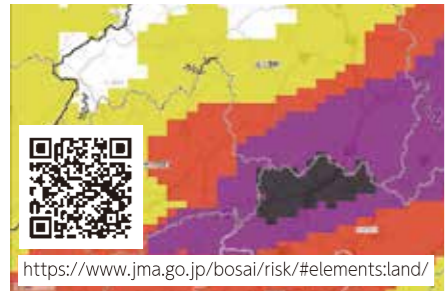


# 防災気象情報

■ **キキクル(危険度分布)** どこで土砂災害や浸水害、洪水災害の危険度が高まっているかを知ることができる、命を守るための情報です。

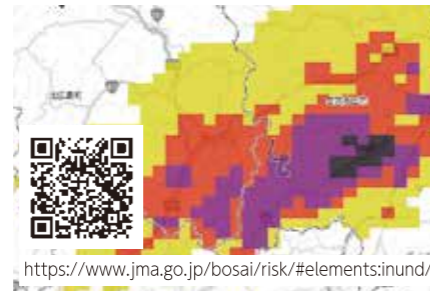
土砂キキクル 大雨警報(土砂災害)の危険度分布



紫色：崖・溪流の近くは危険

高	■ 災害切迫	【警戒レベル5相当】
危険度	■ 危険	【警戒レベル4相当】
	■ 警戒	【警戒レベル3相当】
	■ 注意	【警戒レベル2相当】
低	□ 今後の情報等に留意	

浸水キキクル 大雨警報(浸水害)の危険度分布



紫色：低地は危険

高	■ 災害切迫	【警戒レベル5相当】
危険度	■ 危険	【警戒レベル4相当】
	■ 警戒	【警戒レベル3相当】
	■ 注意	【警戒レベル2相当】
低	□ 今後の情報等に留意	

洪水キキクル 洪水警報の危険度分布



紫色：河川沿いは危険

高	■ 災害切迫	【警戒レベル5相当】
危険度	■ 危険	【警戒レベル4相当】
	■ 警戒	【警戒レベル3相当】
	■ 注意	【警戒レベル2相当】
低	□ 今後の情報等に留意	

※各警戒レベルの詳細については、「かつらぎ町地域防災計画【概要版】」や「気象庁ホームページ」等からご確認いただけます。  
※使用している携帯電話・アプリケーションによっては二次元コードの読み取りができない場合があります。

## ■ 雨の強さと降り方

予報用語	1時間雨量(mm)	人の受けるイメージ	人への影響	屋内(木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて
やや強い雨	10以上20未満	ザーザーと降る。	地面からの跳ね返りで足元がぬれる。	雨の音で話し声が良く聞き取れない。	地面一面に水たまりができる。	—
強い雨	20以上30未満	どしゃ降り。	傘をさしていてもぬれる。	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく。	道路が川のようになる。	ワイパーを速くしても見づらい。
激しい雨	30以上50未満	バケツをひっくり返したように降る。	傘は全く役に立たなくなる。		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる。(ハイドロブレーキ現象)
非常に激しい雨	50以上80未満	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)				車の運転は危険。
猛烈な雨	80以上	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。				

## ■ 風の強さと吹き方

予報用語	平均風速(m/s)	およその時速	速さの目安	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物	およその瞬間風速(m/s)
やや強い風	10以上15未満	~50km	一般道路の自動車	風に向かって歩けにくくなる。傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。電線が揺れ始める。	道路の吹流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける。	樋(とい)が揺れ始める。	20
強い風	15以上20未満	~70km	高速道路の自動車	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	電線が鳴り始める。看板やトタン板が外れ始める。	高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。雨戸やシャッターが揺れる。	30
非常に強い風	20以上25未満	~90km		何かにつかまっていなくて立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。	通常で運転するのが困難になる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルム(被覆材)が広範囲に破れる。	40
猛烈な風	30以上35未満	~125km	特急電車	屋外での行動は極めて危険。	多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。	走行中のトラックが横転する。	固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。養生の不十分な仮設足場が崩落する。	50
	35以上40未満	~140km					外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。	60
	40以上	140km~					住家や倒壊するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。	

## ■ 台風の大きさと強さ

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s(64ノット)以上44m/s(85ノット)未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s(85ノット)以上54m/s(105ノット)未満
		猛烈な	54m/s(105ノット)以上

出典：(図) 気象庁ウェブサイトより編集

# 避難行動ガイド

⚠️ **警戒レベル3高齢者等避難**や**警戒レベル4避難指示**が出たら、危険な場所から避難しましょう。

⚠️ **避難とは難を避けることです。安全な場所にいる人は、避難施設に行く必要はありません。**

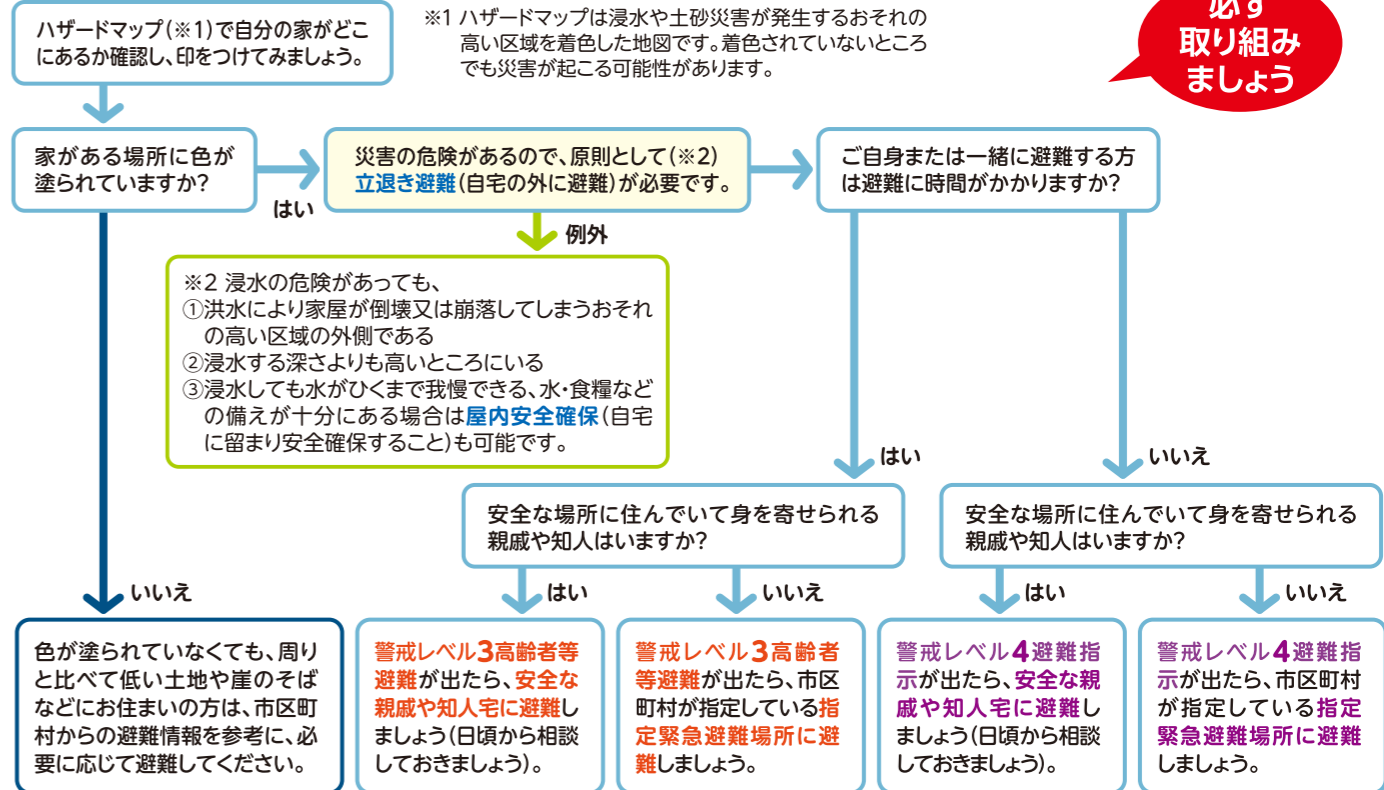
⚠️ **避難先は小中学校・公民館だけではありません。安全な親戚・知人宅やホテル・旅館に避難することも考えてみましょう。**

※各警戒レベルの詳細については、「かつらぎ町地域防災計画」や「気象庁ホームページ」等からご確認いただけます。

## ■ 避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？

普段から確認 「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクと、とるべき行動を確認しましょう。



出典：内閣府ウェブサイトより編集

## ■ 大雨による洪水からの避難のポイント

原則は、浸水する前に避難することです。浸水してからの避難はさまざまな危険があります。自治体などからの情報に注意して早めの避難を心がけてください。特に、自治体から避難指示が出された場合はためらわずに避難しましょう。自治体からの情報が無い場合でも、住んでいる場所の条件などによって危険となる場合がありますので、危険を感じたらすぐに避難します。とくに子どもやお年寄り、体の不自由な人がいる場合は早めに避難しておきましょう。

2 避難するときは、紐で締められるなど、脱げにくく歩きやすいものをはいて外へ出ましょう。

3 氾濫した水の流れは、勢いが強いので水深が膝程度あると大人でも歩くのが困難になります。緊急安全確保として、高い堅牢な建物にとどまることも選択の一つです。氾濫した水は、茶色く濁っており、水路と道路の境や、ふたが空いているマンホールの穴は見えません。他のルートでの避難や自宅などの浸水しない場所に留まることを検討しましょう。

4 車での避難には、移動中に洪水等に見舞われる危険が潜んでいることや、渋滞を発生させるおそれがあることを認識しましょう。

安全が確認されて、自宅に戻ってきたときは、家の安全を確認しましょう。特に断線した電線がないか、電線が家に触れていないか

5 調べ、あればすぐに電力会社に通報します。近所にも知らせ、電線に触れないように注意しましょう。自分で勝手に始末をしてはいけません。

出典：消防庁ウェブサイトより編集